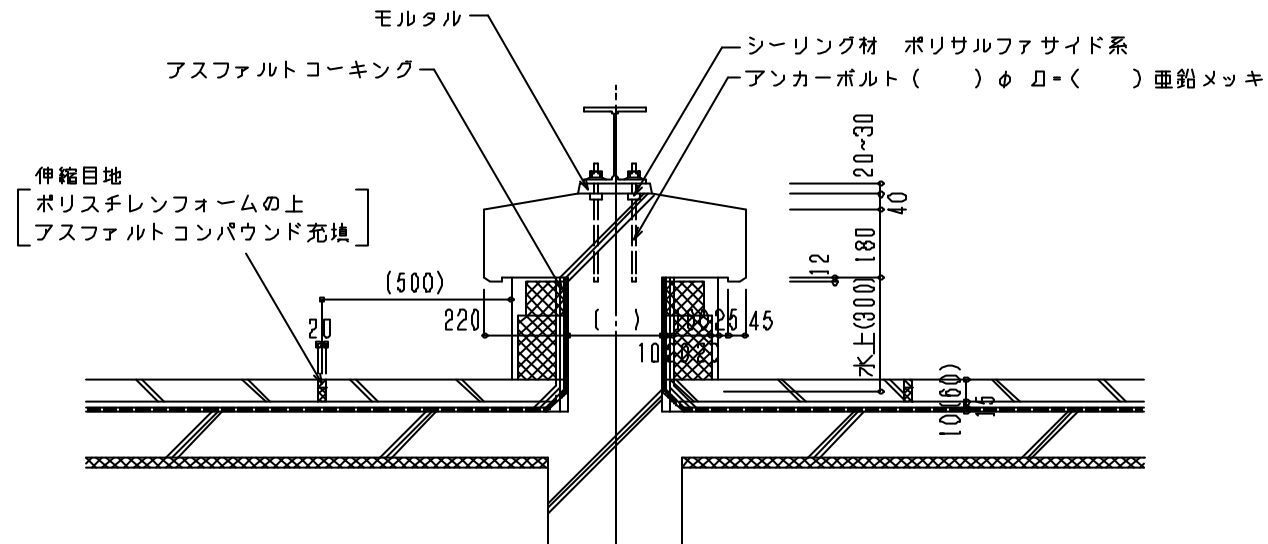


SD-12

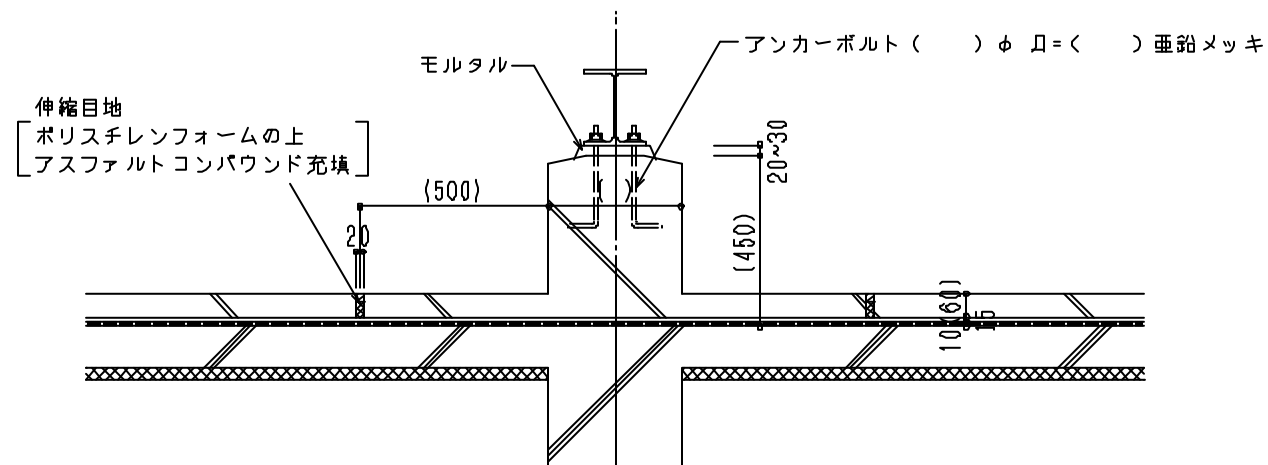
屋根 屋上機器類の基礎 (1)

1:20

布基礎



(機器が軽微で移動が可能な場合)

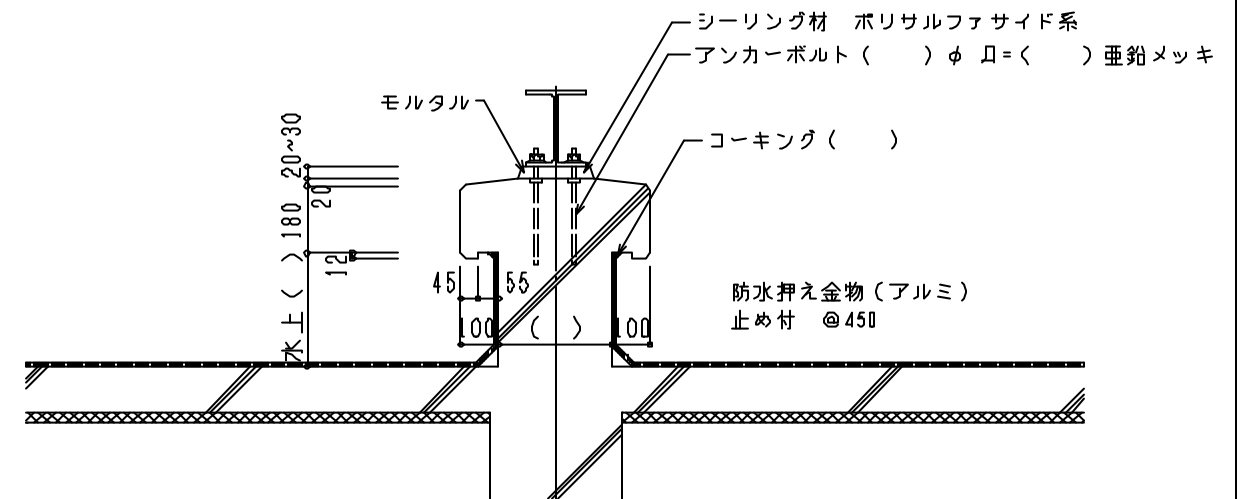


SD-13

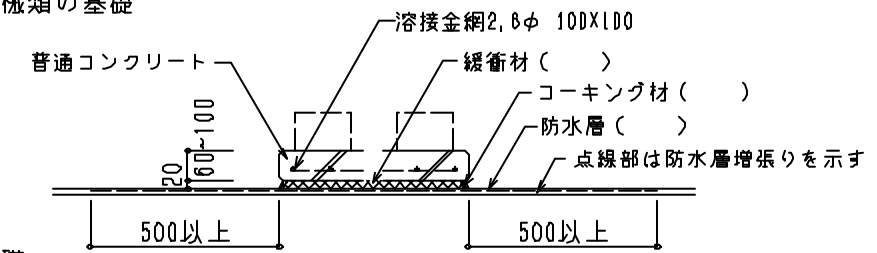
屋根 屋上機器類の基礎 (3)

1:20

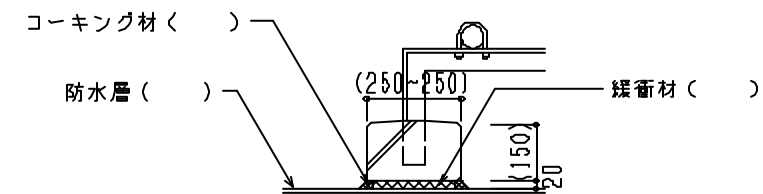
1. 布基礎



2. 軽微な機械類の基礎



3. 配管用基礎



- 適用範囲
- 設備機器荷重を構造体に支持しなければならない場合。(上図)
  - 防水メンテナンス時に、設備機器が移動できない場合。(上図)
  - 防水メンテナンス時に、設備機器が移動できる場合。(下図)
- 注意事項
- 梁の位置、基礎寸法、配筋、アンカーボルト、防震対策の要・不要等を検討する。
  - 寒冷地では防水立上り寸法を水上+450mm以上とする。(上図)
  - 防水層に1t/m<sup>2</sup>以上の荷重がかからないように基礎寸法を検討する。(下図)
  - 屋上水勾配と基礎位置を検討する。(下図)

- 適用範囲
- 設備機器荷重を構造体に支持しなければならない場合。(上図)
  - 防水メンテナンス時に、設備機器が移動できない場合。(上図) 移動できる場合(中・下図)
  - 機械基礎等のコンクリート打設面積の合計が、屋根面積の1割以下かつ10m<sup>2</sup>以下であること。
  - 防水層にかかる荷重は500kg/m<sup>2</sup>以下であること。(中・下図)
- 注意事項
- 梁の位置、基礎寸法、配筋、アンカーボルト、防震対策の要・不要等を検討する。
  - メンテナンス通路部には保護層を考慮する。
  - シート防水の場合は、立上り及び入隅下地を直角とする。
  - 緩衝材は軟質ウレタン発泡シート、フォームポリスチレン等を使用する。